

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272600396		
法人名	社会福祉法人三恵会		
事業所名	ころもりの郷		
所在地	青森県むつ市大畑町29番地4		
自己評価作成日	平成22年11月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aokai.go.iyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272600396&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>過疎地域の施設であるが、行事を通じて地域との関係を保つよう努めている。また併設の特養の機能を生かし災害対策や介護技術の維持向上、栄養管理に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>社会資源に恵まれているとは言えない立地条件であるが、その分地域の期待が大きいことが感じられる。入居者は、森林に囲まれたホームで職員と共に和やかに生活している。また、隣接施設と連携し、入居者や家族が安心できる支援を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がつくった基本理念があり、共有はされているが、多忙な時などは理念にそぐわないケアをしている時がある。	職員が考えた理念を掲げている。理念は玄関に掲示し、共有されている。また、理念に沿った四つの基本方針を定め、日々の支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の祭りに出向いている、また、行事に地域の方を招待している。	住宅地とは離れた場所にあるため、日常的な往来は少ないが、地元の祭典、敬老会などの行事を通じて地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に特に行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、話し合いは行われている。	委員は、町内会長、消防団長、民生委員、入居者の家族などで構成されており、現状の報告や話し合いをもとにサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは運営上の疑問点や指導など交互に意見交換を行う機会がある。	行政担当者とは日頃から疑問点などの相談や助言を受けるなど、頻繁に連絡を取り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠しておらず、玄関の施錠は、19:00～6:45までであり、身体拘束は行っていない。	研修などを通じて身体拘束をしないケアを実践している。日中は玄関の施錠をしておらず、玄関を出入りした際はチャイムが鳴るようにして事故防止に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修で虐待について学び、日常の中で虐待ではないかと疑問に思ったことを匿名で報告するという取組みを以前に行った。虐待に値する行動、行為は職員個々に注意を払いそのような行為は見受けられない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修で制度について学んだことがある。必要性を関係者と話し合うという事は行っていない。新採用職員は未実施である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの際に大まかな契約内容を説明し、入居の際には十分な説明を行い同意を得たのち契約している。また利用料改定の際には常に同意書を作成している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などでうかがっている。要望、意見等がよせられた時は全職員に伝えている。	面会時や電話での連絡の際に家族の意向が汲み取れるように対応している。寄せられた要望等は随時職員に伝え、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で、職員間で意見を出し合ったり、話し合うことで反映されていると思う。	毎月行われる職員会議で、入居者の様子や注意点、反省点を話し合う中で職員の意見を聞き、日々の支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課は実施していないが、資格取得への援助や待遇面の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会がある。また、新たな資格習得のための機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場がい研修、セミナー等に参加し同業者との抗交流を勉強会を年に何回か行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者の方には、可能な限り時間を取り関わり、不安を取り除き信頼関係が築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用の際には、必ずご家族から話を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスは含まれていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事についての事や歴史的な事など年上の方として持っている知識は、教えていただて頻繁にお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見。要望を伺い施設内での様子をご家族に伝えたりしともに支えて行く上での情報交換を行い、その方の介護や関わり方に活かしているが、共に支えて行く関係を気付いているかはわからない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会いに出掛ける支援などはしていないが、不定期のドライブの時など行きたい所を尋ねるなどしている。が人に会うという事に積極的ではなく事側からのアプローチも足りないのかもしれない。	外出時の声掛け、家族や知人が面会に来やすいような雰囲気づくりなど、出来る限り従来の関係が継続されるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一諸に作業をしていただくようにしたり、孤立しないよう職員が間に入って会話をし入居者同士の関係が円滑にいくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了のほとんどは、介護保険施設入所でありその際には、施設やご家族に十分寝情報提供を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの希望・意見を尊重し出来るだけ沿うようにしているが、現実的には難しく形に残せるアセスメントは行っていない。またご家族からの情報を取り入れ意向の確認をすることもある。	本人との日常的な会話、家族との情報交換の中で、一人ひとりの意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査を行っている。また、ご家族から聞き取りすることもある。入居後、個々のケースに目を通したり会話することで情報を取得している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、申し送りノートに記録し全職員に伝わるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向は向うが、話し合いは職員のみで行っている。計画の見直しが長期に渡りおこなっていないので、現状に即していない。	本人の心身の状況により、家族の意見も伺いながら職員間で話し合い、適切にケアしているが、介護計画の更新がされていないケースが見られる。	本人の目標の達成状況や新たな生活課題に対応した介護計画の作成を行い、家族や職員間で情報が共有されることで、よりよい支援が実践されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入、情報の共有はされているが、介護計画の見直しに活かされていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化時はその都度対応していると思う。サービスの多機能化はわからない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については、ほとんど知らない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方については、一番近い診療所を受診してもらっているが、以前からのかかりつけ医を変えたくないという方は、そのまま同じ医師に診てもらっている。	ほとんどの方は、納得を得た上で、最寄りの診療所を受診しているが、本人や家族の要望に応じて適切に対応している。また、受診時の送迎は職員が行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化はすべて介護士・看護師が情報を共有し看護師が処置、受診等の判断をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、知り得ている情報を正確に病院側に伝えられるよう資料を持参している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一部の家族とは、重度化した時の方針が話し合われているが、未定の方もいる。(心身状況に応じた施設や医療機関への入所・入院)ターミナルケアは行っていない。	ホームの方針で終末期ケアには取り組んでいないが、入居時に本人や家族等に説明し、理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は不定期である。また新採用職員はまだ行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時に特養職員、地元の方の応援をお願いしている。避難訓練はほとんどの職員が体験しているが新採用職員は未実施。	年2回、避難訓練を実施している。非常時には地域の方や隣接施設の協力が得られるような体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時や汚染が見られた際には、周囲に気付かれないよう、耳元で小さな声で伝えるようにしている。個人の人格を尊重し個人の誇りを損ねるような声掛け、話し方をしないよう心がけているが、振り返ると反省することが沢山ある。	羞恥心に配慮したさりげない言葉掛けを行ったり、一人ひとりの状況や個性に合った対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方と出来ない方がおられるが、職員が会話の中で導き出し出来る範囲で自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休みたいと話される時には、休んでいただいたり、レク以外にも時間があるときはゲームをしたりテレビを見たり一人ひとり思うように過ごされているが、まだまだ職員の都合を優先しがちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は、化粧(口紅、ファンデーション、マニキュア)を女性入居者の方に勧めているなど行っている。また入居時は、着なれた衣類を持ってきてもらえるようにしている。また、ご家族の方が選んだものをなるべく多く身に付けてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に嗜好品を聴き取り入れるようにしている。また、調理の下ごしらえ、おしぼり等の準備、片付け、盛り付け、食器拭き等を能力を考慮依頼している。嗜好調査を定期的に実施している。	年2回嗜好調査を実施しているほか、日常的に入居者の意見を伺っている。食事の準備や後片付けなどは個々の能力に応じて分担している。また、年3回程度外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の栄養士に献立の確認をしている。栄養バランスや水分量については不十分と思われる方がおり、身体状況に応じ調整しているものの適切な支援方法を見つげだせずにいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の義歯洗浄を行っていただき、口腔内を清潔に保持できるよう対応している。また義歯洗浄薬を週3回用いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつチェックを活用し排せつパターンをもっと理解し、誘導することにより介護用品をできるだけ使用しない排せつに向けた支援をスムーズに行えるようにしている。	日中は、全員がトイレを利用しており、適切に声掛けすることで失敗することがないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防への取組みはしておらず、下剤を使うことが多い。ただし、野菜を多く摂取したりマッサージ法も皆が共有でき働きかけるようにしたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	曜日、時間帯は職員が決めている。ただし、通院や体調不良時には変更し実施している。週1回の夜間入浴を試みたが実際入浴する入居者はなかった。	原則、入浴実施日は週4回、一人週2回となっているが、状況に応じて入浴日を変更するなどの配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝中は、必要のない限り報室しない。日中の休息は妨げず、介助が必要な方には介助している。また乳民前に足浴を行い安眠を促すようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用については把握しきれていないが、用法、用量等は全職員に伝えられている。確実に服用したことを確認するよう申し合わせている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、掃除、洗濯物たたみ、折り紙で装飾品を作るなど個人の力を考えて行ってもらっている。また不定期であるがドライブをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望者はほとんどなく、日常的に希望するところへいけるような支援はしていないが、通院時に買い物をする希望される方には職員配置に問題のない限り対応している。	積極的に外出を希望される方は少ないが、通院時に買い物をするなど気分転換を行っている。暖かい時期には畑作業を行ったり、隣接施設との合同行事へ出掛けるなど楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者はお金を所持しているが、それ以外は全て施設で管理しており、支払いも個々の能力に応じ入居者が支払いができるよう支援したり職員が行っている。残高を知りたいと求めた場合には、本人に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、電話をかけるのを手伝っている。年賀状を職員と協力して作成し家族や知人に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の調整を行っている。気温、湿度計を使い暖房、加湿、換気塔を行っている。季節ごとの装飾を行っている。	季節や天候に応じた採光や温度、湿度の管理を行っている。壁には、季節ごとの装飾や外出時の写真などが飾られ、和やかな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、食事席、たたみ等いくつかの場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていたものは、なるべく居室に置くようにしている。観葉植物を居室内で育てている入居者もいる。	入居者は使い慣れた小物を持ち込んだり、好みの装飾品や写真を飾ったり、居室で観葉植物を育てるなど、一人ひとりが居心地良く過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダー、時計は、座った位置から見えるようにしている。洗面台のそばに口腔、洗面用具を置いている。またトイレが認識できるよう目印をつけたり浴室入口にのれんを下げている。		